

# 1. 教育コースの概要

## ・基礎医学研究者養成コース

これまでの基礎医学研究者の養成は、学生の配属先分野にほぼ全面的に任され、修得できる研究手法や知識は限られたものにならざるを得なかった。現在の基礎医学研究者教育の大きな流れは、多様な視点を持つ研究者の養成、また、多様な価値観を持つ人材の育成、さらに、大学院修了後に速やかに自立できる研究者を育てることを目的にしている。このような流れをふまえ、本養成コースでは各分野が特色ある教育プログラムと実習プログラムを組み、当該分野以外に所属する学生にも多彩な手技や知識を積極的に習得できる環境を提供すると共に、高い研究倫理と生命倫理を備えた基礎医学研究者を組織的に養成することを目的とする。

近年の基礎医学研究は高度化・多様化が進み、配属分野で得られた知識・手技のみでは世界的な研究成果を上げることは困難になりつつある。それは Nature や Science 誌などの論文からも容易に見て取ることが出来る。そこでは大学内、さらに大学の枠を越えた共同研究が日々行われており、様々な研究室で確立された実験手法や知識が有機的に集約され、未知であった多彩な生命現象が次々と明らかにされている。そこで、本養成コースを選択した研究者は医学のバックグラウンドを持つ研究者や、生命科学のバックグラウンドを持つ研究者、さらに、理学部を始めとしたより多様な価値観を持つ研究者と切磋琢磨し、基礎医学研究をより効率的に進める事を可能にする教育・実習プログラムを習得することが出来る。また、研究者が興味を持ち必要とするプログラムを自由に選択・受講出来る体制を組んでいる。さらに医学研究院で行われる研究の利点を生かし、医学的な問題点を常に意識し、それを如何に基礎的なレベルで解決していくか、また研究結果を如何に臨床研究に演繹出来るかを念頭に置いて研究を進めることを指導する。

## ・バイオメディカルリサーチコース

本コースでは、医学と生命科学の橋渡しの研究をも行える次世代型生命科学研究者となる人材の育成を目指した教育を行い、薬学や生命体工学等も含む幅広いバイオメディカルリサーチ分野を支える研究教育拠点形成の柱となる人材（バイオメディカルサイエンティスト（Biomedical Scientist）／エンジニア（Biomedical Engineer））を養成する。

バイオメディカルサイエンティストは、細胞の構造と機能の関連、細胞の情報伝達、薬理作用等を医療と関連づける研究者、もしくは医療現場で臨床医学者と連携する個別化医療、遺伝子・細胞治療創薬等の研究者になるよう教育する。一方、バイオメディカルエンジニアは、医療産業における医学・脳科学とコンピュータ（情報学）や工学との融合に貢献する高度専門職・研究者になるよう教育する。

本コースで求める学生は、1) 人の生命に興味を持ち、生命科学関連領域の研究に情熱を持っている人、2) 自己啓発に積極的であり、新しい領域への挑戦意欲が旺盛な人、3) 人間科学の視点を持った生命科学関連領域の教育者、研究者、専門職業人となることを目指している人、である。

本コースを修了した学生は、医学・医療に関する総合的な知識に加えて、情報科学や工学領域との融合に的確かつ柔軟に対処できる能力を有すると考えられる。つまり、1) 幅広い知識を生かし

た高度な専門的能力を備え、2) 生命医科学に関わる専門職として発展性があり、3) 課題探求・問題解決能力を備え、4) バイオメディカルリサーチ分野でリーダーシップを発揮できる人材と考えられる。したがって、生命科学研究者・基礎医学研究者の人材育成システムコースと位置づけられる。

#### ・臨床研究専門教育コース

現在の医療では、エビデンスに基づく医療（EBM）を実践することが強く求められている。エビデンスを構築するためには良質な臨床研究の推進が必須である。

良質な臨床研究を企画、立案、遂行できる人材の育成を目的として、九州大学では、平成19年に「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（テーマ：臨床研究活性化のための大学院教育改革）の一環として、この目的に特化した科目から構成される臨床研究専門教育コース（選択必修・12単位）を設けた。本コースはこれを継承、発展させたものである。

具体的内容は、1) 臨床研究の歴史、2) 臨床研究の理論的、倫理的、法的根拠、3) 良質な臨床研究をするための体制、4) 臨床研究を実施する上で必須要件とされる生物統計学、5) 臨床研究のプロトコル作成法、等について系統的かつ実践的に学習することが可能なカリキュラム構成となっている。

以下に、具体的なコースの特徴を挙げる。

- ・ 臨床研究に深く関わる分野・施設による各々1、2ヶ月の10科目（各1または2単位）により構成する。
- ・ 臨床研究に従事する可能性のある学生を対象に、博士課程在学中の1年間をかけて一巡する教育を行う。
- ・ 病院勤務医など社会人学生が容易に受講できるよう、授業は原則として週1回、夜間（18：30～20：00、20：10～21：40の2コマ）に開講する。
- ・ 学問界のみならず、臨床研究を実際に推進している現場の医師や民間企業からも講師を招聘して現実に即した教育をする。
- ・ 見学・実習・グループ学習など、体験を重視した実践的教育を行う。
- ・ 出席率、レポート、ポートフォリオなどにより成績評価を行い、単位を認定する。

このコースでの学習を通して、臨床研究遂行能力を備えた医療人を養成することが最終目標である。

#### ・がん専門医師養成コース

悪性新生物は、わが国の死因の第一位を占め、今なお増加傾向にある。すなわち、避けて通ることのできない国民病として理解すべき時代に入ってきた。このような時代背景のもと、どこにいても質の高いがん医療が受けられる（がん医療の均てん化）ことを実現するために、国策として、平成19年4月に「がん対策基本法」が施行された。

九州大学では、この国策を実現するために、「がん治療をリードする高い専門性を有する医師を養成する」本コースを設置した。本コースには、薬物療法を中心に学ぶ「臨床腫瘍医師養成コース」（59単位）と放射線治療を中心に学ぶ「放射線腫瘍医師養成コース」（50単位）を設けている。両コー

スともに、単にがん治療専門医資格取得を目指すのではなく、「臨床腫瘍学や放射線腫瘍学を系統的に学び、学位を取得した指導的立場のがん専門医」を養成するための専門性の高いカリキュラムが組まれている。基本的には、系統的に臨床腫瘍学及び放射線腫瘍学を学ぶための「がん専門医師養成科目」、専門的臨床研究医を育成するための「臨床研究専門教育科目」、病棟・外来での「臨床実習」、および、学位取得のための「がん研究」で構成されている。

カリキュラムの構成自体にも様々な工夫がなされている。具体的には、「がん専門医師養成科目」は「臨床実習：基本的には1-3年次のうちの1.5-2年間」と並行して受講できるように週一回の夜間講義としている（1-2年次）。また、「臨床研究専門教育科目」は、必ずしも受講という形態をとらなくても、ビデオ等で反復して自主学习可能なように工夫されている（1-2年次）。このように、講義と臨床実習を早期に履修することにより、自主的に研究課題が生まれやすいように工夫されており、「がん研究」は、いずれの時期からもスタート可能であるが、少なくとも、後半の2年は「臨床研究」へ集中することが可能な構成になっている（3-4年次）。一方、研究期間中においても、臨床参加と最新のがん治療や腫瘍学の学習が可能ないように、各分野で実施されている腫瘍専門の各種セミナーへの参加カリキュラム（専攻コア統合科目：2-4年次）も準備されている。加えて、緩和医療に関する講義や臨床研修への参加プログラムも整えられている。本コースは、単にがん専門医を養成するためのコースではなく、指導的立場のがん専門医を育成するためのコースである。

#### ・生活習慣病研究教育コース

血管病（脳卒中・心臓病・高血圧）、糖尿病・代謝疾患（高脂血症・肥満・骨粗鬆症）、がんなどの「生活習慣病」はわが国の死因の約7割を占めると共に著しいQOL低下の主因であり、その克服は国家的な課題となっている。したがって、生活習慣病の克服には、日本人に特有の生活習慣病の発症機序・病態を解明し、それに根ざした治療法・予防法を開発する必要がある。九州大学では、生活習慣病をテーマに40年以上の臨床疫学・剖検研究を行ってきた世界的な「久山町研究」の実績と動脈硬化・糖尿病・代謝疾患研究教育の実績がある。この実績を基に、九州大学医系キャンパスでは、平成15年度より21世紀COEプログラム「大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育」を推進している。本拠点では、以下の3つの学問領域を設定し、研究・教育を行ってきた。すなわち、疫学・病理・ゲノム領域（久山町研究を含む北部九州の大規模コホートを構築し、生活習慣調査・膨大な病理標本の解析・ゲノム解析を行い、日本人の「ゲノム疫学データベース」を構築する）、病態解析領域（疫学・病理・ゲノムデータを基に、血管病、糖尿病・代謝疾患、がんの3領域において、その発症に関与する遺伝子の同定とその生体機能の解析を行う）、先端医療開発領域（病態解析領域で同定された標的分子を含めて、九州大学独自の先端医療の開発とゲノム創薬を行う）である。

平成20年度には、九州大学生活習慣病COEプログラムに対応した生活習慣病研究教育コースを設置した。このコースでは、これらの領域に特化した専門家を育成すると同時に、これらの研究領域において、ゲノムから集団までの研究を理解し、生活習慣病の先進的研究をリードできる人材を育成することを目標としている。

## 2. 九州大学大学院医学系学府博士課程医学専攻の履修について

### 1 修了要件

(1) 4年以上在学し、以下の単位数を修得すること。

#### ○基礎医学研究者養成コース

36 単位以上（必修 10 単位、選択 26 単位以上）

（選択の内訳）

- ・初年次共通科目の必修 4 単位及び必須以外から 2 単位以上
- ・基礎研究者養成科目（講義）から 6 単位以上
- ・基礎研究者養成科目（実習）から 6 単位以上
- ・専攻コア統合科目の基礎医学研究者養成コース入門（1）～（5）から 4 単位以上
- ・専攻コア選択科目から 8 単位以上
- ・博士論文演習 6 単位

#### ○バイオメディカルリサーチコース

36 単位以上（必修 10 単位、選択 26 単位以上）

（選択の内訳）

- ・初年次共通科目の必修 4 単位及び必須以外から 2 単位以上
- ・基礎研究者養成科目（講義）から 6 単位以上
- ・基礎研究者養成科目（実習）から 6 単位以上
- ・専攻コア統合科目のバイオメディカルリサーチコース入門（1）～（5）から 4 単位以上
- ・専攻コア選択科目から 8 単位以上
- ・博士論文演習 6 単位

#### ○臨床研究専門教育コース

44 単位以上（必修 10 単位、選択 34 単位以上）

（選択の内訳）

- ・初年次共通科目の必修 4 単位及び必須以外から 2 単位以上
- ・臨床研究専門教育科目 12 単位
- ・臨床実習の臨床研究臨床実習 8 単位
- ・専攻コア統合科目の臨床研究専門教育コース入門（1）～（5）から 4 単位以上
- ・専攻コア選択科目から 8 単位以上
- ・博士論文演習 6 単位

#### ○がん専門医師養成コース（臨床腫瘍医師養成コース）

59 単位以上（必修 10 単位、選択 49 単位以上）

(選択の内訳)

- ・初年次共通科目の必修4単位及び必須以外から2単位以上
- ・臨床研究専門教育科目12単位
- ・がん専門医師養成教育科目から次の科目を含む計11単位以上
  - 臨床腫瘍医の基本原則とがんの心理社会的側面：2単位
  - 悪性疾患の管理、治療の基本原則：4単位
  - 各種がんの管理、治療：5単位
- ・臨床実習のがん臨床実習12単位
- ・専攻コア統合科目のがん専門医師養成コース入門(1)～(5)から4単位以上
- ・専攻コア選択科目から8単位以上
- ・博士論文演習6単位

○がん専門医師養成コース(放射線腫瘍医師養成コース)

50単位以上(必修10単位、選択40単位以上)

(選択の内訳)

- ・初年次共通科目の必修4単位及び必須以外から2単位以上
- ・臨床研究専門教育科目から12単位
- ・がん専門医師養成教育科目から次の科目を含む計2単位以上
  - EBMに基づく放射線治療と最新の知見：2単位
- ・臨床実習のがん臨床実習12単位
- ・専攻コア統合科目のがん専門医師養成コース入門(1)～(5)から4単位以上
- ・専攻コア選択科目から8単位以上
- ・博士論文演習6単位

○生活習慣病研究教育コース

36単位以上(必修10単位、選択26単位以上)

(選択の内訳)

- ・初年次共通科目の必修4単位及び必須以外から2単位以上
- ・基礎研究者養成科目(講義)から6単位以上
- ・基礎研究者養成科目(実習)から6単位以上
- ・専攻コア統合科目の生活習慣病研究教育コース入門(1)～(5)から4単位以上
- ・専攻コア選択科目から8単位以上
- ・博士論文演習6単位

(2) 必要な研究指導を受けた上、本学府の行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

## 九州大学大学院医学系学府博士課程の履修について

### 1. 博士課程の修了要件は、各コースにより36-59単位以上修得のこと

科 目	単 位 数	履修年次
初 年 次 共 通 科 目	6	1 年次
基 礎 研 究 者 養 成 科 目	12 (選択)	1 - 3 年次
臨 床 研 究 専 門 教 育 科 目	12 (選択)	
a) 臨床腫瘍医師養成コース b) 放射線腫瘍医師養成コース	(11) (2)	
専 門 科 目	18	2 - 4 年次
a) 専攻コア統合科目	(4)	
b) 専攻コア選択科目 c) 博士論文演習	(8) (6)	
臨 床 実 習	(8)	2 - 4 年次
a) 臨床研究臨床実習 b) がん臨床実習	(12)	
合 計	36 - 59	

※基礎研究者養成科目もしくは臨床研究専門教育科目のどちらか（12単位）は必ず全て履修しなければならない。

#### (1) 初年次共通科目 3科目6単位以上修得のこと（必修）

下記の初年次共通科目から3科目6単位以上を原則として1年次に履修しなければならない。

科 目 名	内 容	単位数		備 考
医 学 史	講義・グループワーク	2	必 修	
医 学 研 究 の 倫 理	講義・グループワーク	2	必 修	
医 学 英 語	講義・演習	2	選択必修	オンライン授業
医学教育・研究発表技法	講義・演習	2	選択必修	

#### (2) 基礎研究者養成科目（講義） 6単位以上修得のこと（選択必修）

基礎研究者養成科目を選択した者は、下記の科目（講義）から6単位以上を原則として1 - 3年次に履修しなければならない。

科 目 名	内 容	単位数	備 考
形 態 科 学 研 究 法 (1)	講 義	2	
医 療 情 報 統 計 科 学 研 究 法	講 義	1	
生 物 化 学 研 究 法	講 義	1	
実 験 動 物 学 研 究 法	講 義	2	
生 理 科 学 研 究 法	講 義	1	
微 生 物 学 ・ 免 疫 学 研 究 法	講 義	2	
社 会 医 学 研 究 法 (1)	講 義	1	
社 会 医 学 研 究 法 (2)	講 義	1	
生 物 物 理 学 研 究 法	講 義	1	
移 植 再 生 医 学 研 究 法	講 義	1	
先 端 医 療 工 学 研 究 法	講 義	1	

## 基礎研究者養成科目（実習） 6単位以上修得のこと

基礎研究者養成科目を選択した者は、下記の科目（実習）から6単位以上を原則として1-3年次に履修しなければならない。各科目（実習）は3段階（初級・中級・上級）に分け、初級は当該分野への配属学生以外の学生も履修可能とする。（但し受入人数に制限あり）中・上級は原則として配属学生を対象とし、他分野配属学生の履修は個別の相談による。

科目名	実習テーマ	内容	単位数			合計 単位数
			初級	中級	上級	
形態機能形成学	細胞間結合装置の超微構造研究法	実習	2	2	2	6
発生再生医学	発生学研究法	実習	2	2	2	6
医化学	受容体研究法	実習	2	2	2	6
基礎放射線医学	分子生物学研究法	実習	2	2	2	6
生化学	生化学実験法	実習	2	2	2	6
生体情報薬理学	細胞薬理学的研究法	実習	2	2	2	6
	電気生理学研究法	実習	2	2	2	6
臨床薬理学	薬物動態研究法	実習	2	2	2	6
分子細胞情報学	細胞カルシウムシグナル研究法	実習	2	2	2	6
神経形態学	形態科学研究法・神経形態実験法	実習	2	2	2	6
統合生理学	電気生理学研究法	実習	2	2	2	6
臨床神経生理学	脳機能研究法	実習	2	2	2	6
病理病態学	臨床病理学研究法	実習	2	2	2	6
形態機能病理学	病理学研究法	実習	2	2	2	6
神経病理学	神経生物学研究法	実習	2	2	2	6
臨床検査医学	細胞生物学研究法	実習	2	2	2	6
細菌学	細菌学研究法	実習	2	2	2	6
ウイルス学	ウイルス学研究法	実習	2	2	2	6
感染免疫・熱帯医学	感染免疫学研究法	実習	2	2	2	6
予防医学	統計解析演習	実習	2	2	2	6
環境医学	金属中毒学研究法	実習	2	2	2	6
法医学	法医病理学研究法	実習	2	2	2	6
医療情報学	医療データ処理・統計解析実習	実習	2	2	2	6
医療システム学	政策・経営・管理研究法	実習	2	2	2	6
老年医学	転写調節研究法	実習	2	2	2	6
腫瘍制御学	臨床腫瘍免疫学研究法	実習	2	2	2	6
分子医科学	分子発現制御学研究法	実習	2	2	2	6
免疫遺伝学	免疫遺伝学研究法	実習	2	2	2	6
脳機能制御学	脳機能制御学研究法	実習	2	2	2	6
感染制御学	感染制御学研究法	実習	2	2	2	6
災害・救急医学	先端工医学実習	実習	2	2	2	6
エピゲノム学	エピゲノム学研究法	実習	2	2	2	6
ゲノム病態学	悪性腫瘍に対する遺伝子・細胞療法 の開発	実習	2	2	2	6
分子生理学	大脳皮質の神経回路の研究法	実習	2	2	2	6
ゲノム腫瘍学	腫瘍形成や個体発生に関わる遺伝 子研究法	実習	2	2	2	6
動物実験学	実験動物の技術と応用	実習	2	2	2	6
医学教育学	授業計画の立案実施評価法	実習	2	2	2	6
分子免疫学	免疫受容体を介する活性化応答の 研究法	実習	2	2	2	6

※生医研・別府地区について

生医研・別府地区では、下記の3科目12単位を開講するので上記基礎研究者養成科目に代えて履修することが出来る。但し、講義のみ実習のみの受講は認められない。

科目名	内容	単位数	備考
分子生物学研究法	講義	2	別府地区開講
	実習	2	別府地区開講
免疫学研究法	講義	2	別府地区開講
	実習	2	別府地区開講
形態科学研究法(2)	講義	2	別府地区開講
	実習	2	別府地区開講

### (3) 臨床研究専門教育科目 10科目12単位を修得のこと

臨床研究専門教育コース、がん専門医師養成コース（臨床腫瘍医師養成コース、放射線腫瘍医師養成コース）を選択した者は下記の科目を原則として1-3年次に履修しなければならない。1年間継続して履修することを推奨する。

科目名	内容	単位数
臨床研究の現状と将来展望	講義	1
臨床研究の倫理と規制	講義	1
臨床研究デザイン	講義	2
臨床研究データの解析	講義	2
臨床研究のシステムとその構築	講義	1
疫学研究	講義	1
医薬品・医療機器の開発	講義	1
ゲノム薬理学とEBM	講義	1
がんの臨床試験とEBMの構築	講義	1
トランスレーショナルリサーチの歴史、倫理、現状	講義	1

### (4) がん専門医師養成教育科目

a) がん専門医師養成コース（臨床腫瘍医師養成コース）を選択した者は、下記の科目（11単位以上）を原則として1-3年次に履修しなければならない。また、癌治療と関連するその他の関連科目の履修を推奨する。

b) がん専門医師養成コース（放射線腫瘍医師養成コース）を選択した者は、下記の科目（2単位）を原則として1-3年次に履修しなければならない。また、がん医師養成コース入門・臨床放射線科学の履修を必修とする。さらに、癌治療と関連する他の関連科目を推奨する。

科目名	内容	単位数	a	b
臨床腫瘍医の基本原則とがんの心理社会的側面	講義	2	○	
悪性疾患の管理、治療の基本原則	講義	4	○	
各種がんの管理、治療	講義	5	○	
EBMに基づく放射線治療と最新の知見	講義	2		○
緩和ケアの概念と各論	講義	2		

九州がんプロフェッショナル養成プランが提供する「e-ラーニングプログラムジュークボックス」は、本学の講義以外に、さらに広く、深く学ぶための参考資料として視聴を推奨します。



(5) 専門科目 合計18単位以上を修得のこと

a) 専攻コア統合科目 4科目4単位以上修得のこと

4科目以上の授業科目を2～4年次に履修しなければならない。

(4科目4単位以上の単位修得選択必修)

科 目 名	単位数
基礎医学研究者養成コース入門 (1)	1
基礎医学研究者養成コース入門 (2)	1
基礎医学研究者養成コース入門 (3)	1
基礎医学研究者養成コース入門 (4)	1
基礎医学研究者養成コース入門 (5)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (1)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (2)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (3)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (4)	1
バイオメディカルリサーチコース入門 (5)	1
臨床研究専門教育コース入門 (1)	1
臨床研究専門教育コース入門 (2)	1
臨床研究専門教育コース入門 (3)	1
臨床研究専門教育コース入門 (4)	1
臨床研究専門教育コース入門 (5)	1
がん専門医師養成コース入門 (1)	1
がん専門医師養成コース入門 (2)	1
がん専門医師養成コース入門 (3)	1
がん専門医師養成コース入門 (4)	1
がん専門医師養成コース入門 (5)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (1)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (2)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (3)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (4)	1
生活習慣病研究教育コース入門 (5)	1

b) 専攻コア選択科目 4科目8単位以上修得のこと

指導教員の属する研究単位の授業科目から2科目以上を含め4科目8単位以上の授業科目を2～4年次に履修しなければならない。

(4科目8単位以上の単位修得選択必修)

必 要 科 目	必要単位数
指導教員の属する研究単位の授業科目 (4科目)	8単位以上

c) 博士論文演習 3科目6単位修得のこと

下記の授業科目を2～4年次に3科目6単位履修しなければならない

(3科目6単位修得必修)

科 目 名	単位数
博 士 論 文 基 礎 演 習	2
博 士 論 文 応 用 演 習	2
博 士 論 文 作 成 演 習	2

(6) 臨床実習

臨床研究専門教育コースは臨床研究臨床実習8単位、がん専門医師養成コース（臨床腫瘍医師養成コース、放射線腫瘍医師養成コース）はがん臨床実習12単位を2～4年次に履修しなければならない。

科 目 名	単位数
臨 床 研 究 臨 床 実 習	8
が ん 臨 床 実 習	12

※臨床研究臨床実習

コース履修の際は、3か月間は所属する講座において計画中あるいは進行中の臨床研究に参加する。

※がん臨床実習（臨床腫瘍医師養成コース、放射線腫瘍医師養成コース）は3か月12単位修得のこと。臨床腫瘍医師養成コースのうち、がん薬物療法専門医師取得を目指す者はローテーションを行う等により3領域以上の診療経験を積むこと。

放射線腫瘍医師養成コースはがん医師養成コース入門・臨床放射線科学の履修の際に、3か月間以上の放射線治療に関する臨床実習を行う。

## 大学院博士課程の早期修了について

医学系学府博士課程の在学期間に関しては、「優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする」とされています。

### 「優れた研究業績を上げた者」についての条件

英文論文2編以上を作成した者で、次の条件をすべて満たす者とする。

- ① 主論文は博士課程在学中に作成し、一流英文誌に受理されたもので、その学問的価値が特に高いこと。
- ② 博士課程在学中に三位以内に名前を連ねた参考論文を1編以上作成し、主論文提出までに一流英文誌に受理されていること。

なお、修士課程修了者は、②の「博士課程在学中」を「修士課程在学中」に、6年制の学士課程卒業者は、②の「博士課程在学中」を「6年制の学士課程在学中」に読み替えることができる。ただし、参考論文は、医学・生命科学領域の論文に限る。

以上の条件を満たしている者は入学後2年6ヶ月を過ぎれば学位論文の予備調査を申請できます。なお、予備調査の受理については大学院委員会で諮られます。

※学位申請書類は医学系学府のホームページで入手できます。

[http://www.grad.med.kyushu-u.ac.jp/doctors\\_course/degree.html](http://www.grad.med.kyushu-u.ac.jp/doctors_course/degree.html)